白梅学園大学・短期大学情報教育研究
2021,No.24,11－20.

保育者養成施設における友人との学習活動に関する研究
～オンライン式授業と対面式授業の比較をもとにして～

鳥海　弘子・浅井　拓久也

１．研究背景と課題設定

2020年１月16日に国内で初めての感染者が確認された新型コロナウイルス感染症（以下COVID－19）は、日本国内に流行し、「不要不急の外出自粛」、「マスクの着用」、「手指のアルコール消毒」、「密を避ける」など今までの生活では、考えられない対応を行わなければならなくなり、普段の生活が一変してきた。緊急事態宣言という、初めての状況に誰もが驚き戸惑いながら、新生活様式を受け入れ社会が動き始めた。

こうした社会の変化に伴い、高等教育機関では、今まで行っていたスタイルの授業を実施することができなくなり、教室で集合しての授業（以下、対面式授業）とインターネットを活用した授業（以下、オンライン式授業）を行うこととなった。そのため、学生のインターネット環境、通信制限、教員の通信環境等の確認を行い、５月中旬より本格的にオンライン式授業を実施することになった。

オンライン式授業は自宅でひとりで授業を進めるため、負担も多く、携帯電話で画面も小さく操作方法もままならないこともあり、学生にとって質の高い教育になっているかと言えば疑問が残るであろう。現状感染症対策を行いながら対面式授業を実施することは難しく、そのため今後ますますオンライン式授業が展開されることが予想される。そこで、本研究では、学生の学習支援の方策を検討するために、対面式とオンライン式との授業について学生がどのような違いを認識しているか、特に大学での学習は友人との協働的学習が重要であるが、この点においてどのような差異があるのかを明らかにする。本研究では、２年生以上を対象として大学での対面式授業の経験とオンライン式授業の経験を比較分析することで、その差異を抽出する。

２．本研究の位置づけ

教育において学生自身のやる気や意欲をいかに高めていくかは重要であり、教員にとってもどのように関わることで、学習効果が得られるかは日々検討していくことでもある。特に大学での友人関係は、大きな影響があり、ポジティブな友人関係を築いていれば、学習への意欲や学業達成が高いことが明らとなり、（eg, Berndt, 1999; Guay, Boivin, &Hodges, 1999; Ide, Parkerson, Haertel, &Walberg, 1981）　友人関係が学習には重要であることが示されている。

その関りの中で大学生の友人関係には，接触をともなわなくとも個人の内的適応に影響を及ぼしうる関係が存在している（丹野2007）と示唆されている。

そして友人によるサポート供与はその友人が評価懸念をもたらさない存在である時にストレス緩和効果をもつと考えられる。（菅沼ら1996）友人によるサポ―ト供与の実質的な効果を示すものである。

その中で友人との学習活動においても、学業援助要請は、困難に直面した時に援助を求める方法である。（eg, Newman, 1990；岡田，2008）課題解決には不可欠なものであることを示しているとともに、援助提供も行われており、学習の成果を導くことも明らかとなっている。このような友人との学習活動には相互的学習や間接的支援、学習機会などが総合的に絡み合いながら、学習意欲や

学業達成への変化に繋がることが知られている。

そこで、岡田（2008）で検討した「援助要請」、「援助提供」、「相互学習」、「間接的支援」、「学習機会」における対面式授業とオンライン式授業でのどのような違いを感じているのかを知ることで、今後の学習支援の在り方を検討する。

３．研究方法

（１）調査概要

本研究の調査対象は、首都圏にある保育者養成校（短期大学）140名を対象に実施した。調査は2020年10月27日～30日の授業終了後に実施した。調査方法は無記名式質問紙調査とし、質問紙への回答はスマートフォンによる入力とした。

（２）調査項目

岡田（2008）の「友人関係への動機づけ尺度と速水ら（1996）による「学習への動機づけ尺度」を参考に「援助要請 」､「援助提供 」､「相互学習 」、「間接支的支援 」、「学習機会」に分類し質問項目を作成した。回答方法は、１“：まったくしていなかった”から５“：していた”の５件法で実施した（表１）。

表1　　質問項目

援助要請
どうしてもわからないときに教えてもらう
テスト範囲や宿題の内容を尋ねる
わからない内容を理解するきっかけを提供してもらう
理解するためのコツや視点をわかるまで教えてもらう
教科書やノートを貸してもらう
援助提供
友人がわからないとき教えてあげる
自分がわかっている内容を理解するきっかけを与える
教科書やノートを貸してあげる
自分がわかっている内容を詳しく説明する
相互学習
テスト前に問題を出し合う
興味のある内容について話し合う
わからない内容を一緒に考えたり調べたりする
自分が理解していることを教え合う
クイズ形式や出題される内容の推測等、友人と一緒に工夫して勉強する
間接的支援
成績やテストの点数を見せ合う
授業や勉強への不満を話し合う
お互いの進路について話し合う
友人と一緒に先生に質問をしに行く
学習機会
講演会やセミナーに友人と一緒に行く
一緒に図書館に行く
休み時間中に友人と一緒に勉強する
放課後、大学で友人と一緒に勉強する
カフェや自宅で一緒に勉強する

（３）分析方法

対面式授業とオンライン式授業の質問項目のクロス表を作成し単純集計による差により現状と課題を検討する。

（４）倫理的配慮

調査の実施に際し回答は任意であることを説明し､参加への同意を得た上で回答を促し実施した。なおこの調査は、秋草学園短期大学研究倫理審査委員会より承認を得て実施した。（承認番号2020-11）

４．結果と考察

（１）回答状況

保育者養成校（短期大学）２年課程２年生103名、３年課程３年生37名、140名に実施した。回答は96名であったが、不備のあるものを除き84名（有効回答率60％）であった。

（２）援助要請の質問項目について

質問項目「どうしてもわからないときに友達から教えてもらう」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」62名、「まあまあしていた」18名、80名（95.2％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」47名、「まあまあしていた」25名、72名（85.7％）という結果であった。「テスト範囲や宿題の内容を友達に尋ねる」、「わからない内容を理解するきっかけを友達から提供してもらう」、「理解するためのコツや視点をわかるまで友達ら教えてもらう」の質問項目は対面式授業の時は70

表2-1　援助要請質問項目結果　n＝84

	対面式授業		オンライン式授業	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
どうしてもわからないときに友達から教えてもらう。	4.67	0.646	4.27	1.057
テスト範囲や宿題の内容を友達に尋ねる。	4.24	0.989	3.99	1.125
わからない内容を理解するきっかけを友達から提供してもらう。	4.30	0.741	3.98	1.172
理解するためのコツや視点をわかるまで友達から教えてもらう。	3.98	1.086	3.70	1.269
教科書やノートを友達から貸してもらう。	2.93	1.287	2.05	1.251

表2-2　援助要請の質問項目における対面式授業とオンライン式授業のクロス結果　n＝84

		［オンライン式授業のときは］どうしてもわからないときに友達から教えてもらう。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］どうしてもわからないときに友達から教えてもらう。	あまりしていなかった。	0	1	0	0	1	2
	どちらともいえない。	0	0	1	1	0	2
	まあまあしていた。	2	0	1	6	9	18
	よくしていた。	0	7	0	18	37	62
合計		2	8	2	25	47	84

		［オンライン式授業のときは］テスト範囲や宿題の内容を友達に尋ねる。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］テスト範囲や宿題の内容を友達に尋ねる。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	0	1	1	4	1	7
	どちらともいえない。	0	0	3	2	1	6
	まあまあしていた。	4	2	1	15	5	27
	よくしていた。	0	2	3	13	25	43
合計		5	5	8	34	32	84

		［オンライン式授業のときは］わからない内容を理解するきっかけを友達から提供してもらう。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］わからない内容を理解するきっかけを友達から提供してもらう。	あまりしていなかった。	0	2	0	0	0	2
	どちらともいえない。	1	0	4	2	1	8
	まあまあしていた。	2	4	1	20	10	37
	よくしていた。	1	3	2	7	24	37
合計		4	9	7	29	35	84

		［オンライン式授業のときは］理解するためのコツや視点をわかるまで友達から教えてもらう。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］理解するためのコツや視点をわかるまで友達から教えてもらう。	まったくしていなかった。	4	0	0	1	0	5
	あまりしていなかった。	0	3	0	0	0	3
	どちらともいえない。	0	0	8	1	2	11
	まあまあしていた。	2	6	5	17	5	35
	よくしていた。	0	2	1	5	22	30
合計		6	11	14	24	29	84

		［オンライン式授業のときは］教科書やノートを友達から貸してもらう。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］教科書やノートを友達から貸してもらう。	まったくしていなかった。	8	0	0	1	1	10
	あまりしていなかった。	16	13	0	0	0	29
	どちらともいえない。	3	3	7	2	0	15
	まあまあしていた。	8	4	0	4	1	17
	よくしていた。	3	3	3	0	4	13
合計		38	23	10	7	6	84

～80％実施していたが､オンライン式授業の時は、30％の実施との回答となり減少傾向であった。

また、「教科書やノートを友達から貸してもらう」に関しては、対面式授業の時は「よくしていた」13名､「まあまあしていた」17名、30名（35.7％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」６名､「まあまあしていた」７名､11名（13％）と、どちらも元々実施していない傾向ではあるが、オンライン式授業の方がより実施していない傾向であった。（表２-1，表２- ２）。

対面式授業やオンライン式授業においても、友達に教えてもらうことは、変わらずに行っているが、より具体的に理解を深めるための関りはオンライン式授業となってからが減少傾向となり、直接会う機会の減少により少なくならざるを得ないのではないだろうか。学びを深めるには、友達との関りが重要であるため、同じ教室で授業を受けることが出来なくても、双方向でのオンラインシステムのZOOMやTeams、Googleなどのソフトを活用して、教室に代わる仮想空間を作り、学生自身が簡単に使用できる環境の整備が求められている。

（３）援助提供の質問項目について

質問項目「友人がわからないとき教えてあげる」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」25名、「まあまあしていた」44名、69名（82.1％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」24名、「まあまあしていた」36名、60名（71.4％）という結果であった。

「自分がわかっている内容を友達に詳しく説明してあげる」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」19名､「まあまあしていた」41名､60名（71.4％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」14名、「まあまあしていた」35名、49名（58.3％）という結果であった。

「教科書やノートを友達に貸してあげる」は対面式授業の時は「よくしていた」25名、「まあまあしていた」29名、54名（64.2％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」14名、「まあまあしていた」15名、29名（34.5％）という結果であった。

援助提供の項目は、実施している傾向が高く、日頃の学びを深めるには、友人からの支援が必要であることがわかった（表３-1，表３- ２）。

学んだことが本当に理解できているかを、確かめる上でも友人に、教えてあげるという行為は、更なる理解向上に繋がることになる。友人からも感謝され、自分自身の学びを深めることになり、相乗効果に繋がるのであろう。人のために役に立つことは、人としての成長に繋がり、今後の学びへのステップアップに効果を示すであろう。

（４）相互学習の質問項目について

質問項目「テスト前に友達と問題を出し合う」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」38名、「まあまあしていた」23名、61名（72.6％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」７名、「まあまあしていた」10名、17名（20.2％）という結果であった。

表3-1　援助提供質問項目結果　n＝ 84

	対面式授業		オンライン式授業	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
友達がわからないとき教えてあげる。	4.07	0.803	3.83	1.074
自分がわかっている内容を理解するきっかけを与えてあげる。	3.81	0.898	3.65	1.092
教科書やノートを友達に貸してあげる。	3.68	1.204	2.70	1.487
自分がわかっている内容を友達に詳しく説明してあげる。	3.86	0.894	3.44	1.186

表3-2　援助提供の質問項目における対面式授業とオンライン式授業のクロス結果　n=84

		［オンライン式授業のときは］友達がわからないとき教えてあげる。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］友達がわからないとき教えてあげる。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	0	1	1	0	0	2
	どちらともいえない。	1	2	6	2	1	12
	まあまあしていた。	0	3	7	30	4	44
	よくしていた。	2	0	0	4	19	25
合計		4	6	14	36	24	84

		［オンライン式授業のときは］自分がわかっている内容を理解するきっかけを与えてあげる。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］自分がわかっている内容を理解するきっかけを与えてあげる。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	2	2	0	0	0	4
	どちらともいえない。	0	2	18	5	0	25
	まあまあしていた。	1	5	0	27	1	34
	よくしていた。	0	0	0	2	18	20
合計		4	9	18	34	19	84

		［オンライン式授業のときは］教科書やノートを友達に貸してあげる。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］教科書やノートを友達に貸してあげる。	まったくしていなかった。	4	0	0	0	0	4
	あまりしていなかった。	5	6	1	1	1	14
	どちらともいえない。	2	2	5	2	1	12
	まあまあしていた。	9	8	2	8	2	29
	よくしていた。	6	0	5	4	10	25
合計		26	16	13	15	14	84

		［オンライン式授業のときは］自分がわかっている内容を友達に詳しく説明してあげる。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］自分がわかっている内容を友達に詳しく説明してあげる。	まったくしていなかった。	2	0	0	0	0	2
	あまりしていなかった。	2	1	0	0	0	3
	どちらともいえない。	1	2	12	3	1	19
	まあまあしていた。	3	7	3	27	1	41
	よくしていた。	0	0	2	5	12	19
合計		8	10	17	35	14	84

「興味のある内容について友達と話し合う」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」27名、「まあまあしていた」33名、60名（71.4％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」10名、「まあまあしていた」25名、35名（41.6％）という結果であった。

「クイズ形式や出題される内容の推測等、友達と一緒に工夫して勉強する」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」29名、「まあまあしていた」25名、54名（64.2％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」８名、「まあまあしていた」20名、28名（33.3％）という結果であった。

表4-1　相互学習質問項目結果　n=84

	対面式授業		オンライン式授業	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
テスト前に友達と問題を出し合う。	4.00	1.182	2.24	1.323
興味のある内容について友達と話し合う。	3.92	1.020	3.02	1.270
わからない内容を友達と一緒に考えたり調べたりする。	4.07	0.889	3.58	1.194
自分が理解していることを友達とお互いに教え合う。	4.08	0.824	3.67	1.112
クイズ形式や出題される内容の推測等、友達と一緒に工夫して勉強する。	3.83	1.074	2.82	1.263

表4-2　　相互学習の質問項目における対面式授業とオンライン式授業のクロス結果　　n=84

		［オンライン式授業のときは］テスト前に友達と問題を出し合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］テスト前に友達と問題を出し合う。	まったくしていなかった。	4	1	0	0	0	5
	あまりしていなかった。	2	3	0	0	0	5
	どちらともいえない。	2	3	8	0	0	13
	まあまあしていた。	10	4	3	6	0	23
	よくしていた。	16	9	2	4	7	38
合計		34	20	13	10	7	84

		［オンライン式授業のときは］興味のある内容について友達と話し合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］興味のある内容について友達と話し合う。	まったくしていなかった。	3	0	0	0	0	3
	あまりしていなかった。	1	3	0	0	0	4
	どちらともいえない。	0	1	15	1	0	17
	まあまあしていた。	5	11	3	14	0	33
	よくしていた。	4	2	1	10	10	27
合計		13	17	19	25	10	84

		［オンライン式授業のときは］わからない内容を友達と一緒に考えたり調べたりする。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］わからない内容を友達と一緒に考えたり調べたりする。	まったくしていなかった。	0	1	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	0	1	1	0	1	3
	どちらともいえない。	1	0	12	2	0	15
	まあまあしていた。	3	8	4	18	2	35
	よくしていた。	0	3	4	2	21	30
合計		4	13	21	22	24	84

		［オンライン式授業のときは］自分が理解していることを友達とお互いに教え合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］自分が理解していることを友達とお互いに教え合う。	あまりしていなかった。	1	2	0	0	1	4
	どちらともいえない。	1	0	8	4	0	13
	まあまあしていた。	2	8	4	23	2	39
	よくしていた。	0	1	1	10	16	28
合計		4	11	13	37	19	84

		［オンライン式授業のときは］クイズ形式や出題される内容の推測等、友達と一緒に工夫して勉強する。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］クイズ形式や出題される内容の推測等、友達と一緒に工夫して勉強する。	まったくしていなかった。	3	0	0	0	0	3
	あまりしていなかった。	3	1	0	1	0	5
	どちらともいえない。	4	0	17	2	0	23
	まあまあしていた。	3	7	3	12	0	25
	よくしていた。	3	11	1	5	8	28
合計		16	19	21	20	8	84

相互学習は、対面式授業では教室内で休み時間などを利用して実施しやすい環境であると思われる。オンライン式授業では、それぞれの自宅でひとりでの学習であることから、一緒に学びを深める行動を気軽に行うことができない傾向であることがわかった。（表４-1，表４- ２）

一緒に学び合う中で、ともに成長する方法であることから、対面式授業では、一緒に授業を教室で受けているため、容易に実施することができたが、それぞれの自宅等において実施するには、通信機器の環境や通信料金等の設定などにも影響され、実施するにもできない状況であることも考えられる。学びを深めるためには、通信環境の整備及び充実が大学側と学生の自宅での両方向の整備が必要であると考える。

（５）間接的支援の質問項目について

質問項目「成績やテストの点数を友達と見せ合う」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」30名、「まあまあしていた」33名、63名（75％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」10名、「まあまあしていた」12名、22名（26.1％）という結

表5-1　　間接支援質問項目結果　　n=84

	対面式授業		オンライン式授業	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
成績やテストの点数を友達と見せ合う。	3.99	1.000	1.448	2.39
授業や勉強への不満を友達と話し合う。	4.39	0.892	1.156	4.15
お互いの進路について友達と話し合う。	4.35	0.814	1.183	3.79
友達と一緒に先生に質問をしに行く。	3.89	1.076	1.331	2.49

表5-2　　間接支援の質問項目における対面式授業とオンライン式授業のクロス結果　　n=84

		［オンライン式授業のときは］成績やテストの点数を友達と見せ合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］成績やテストの点数を友達と見せ合う。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	7	1	0	0	0	8
	どちらともいえない。	5	0	7	0	0	12
	まあまあしていた。	14	6	3	10	0	33
	よくしていた。	8	6	4	2	10	30
合計		35	13	14	12	10	84
		［オンライン式授業のときは］授業や勉強への不満を友達と話し合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］授業や勉強への不満を友達と話し合う。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	1	2	0	0	1	4
	どちらともいえない。	0	1	4	0	0	5
	まあまあしていた。	0	1	3	15	6	25
	よくしていた。	1	4	1	4	39	49
合計		3	8	8	19	46	84
		［オンライン式授業のときは］お互いの進路について友達と話し合う。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］お互いの進路について友達と話し合う。	まったくしていなかった。	1	0	0	0	0	1
	あまりしていなかった。	0	0	2	0	0	2
	どちらともいえない。	0	0	4	1	1	6
	まあまあしていた。	1	8	7	14	3	33
	よくしていた。	1	3	5	6	27	42
合計		3	11	18	21	31	84
		［オンライン式授業のときは］友達と一緒に先生に質問をしに行く。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］友達と一緒に先生に質問をしに行く。	まったくしていなかった。	4	0	0	0	0	4
	あまりしていなかった。	3	2	0	0	0	5
	どちらともいえない。	5	2	7	0	0	14
	まあまあしていた。	7	14	8	5	0	34
	よくしていた。	4	8	2	2	11	27
合計		23	26	17	7	11	84

果であった。

「友達と一緒に先生に質問をしに行く」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」27名、「まあまあしていた」34名、61名（72.6％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」11名、「まあまあしていた」７名、18名（21.4％）という結果であった。

「授業や勉強への不満を友達と話し合う。」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」49名、「まあまあしていた」25名、74名（88％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」46名、「まあまあしていた」19名、65名（77.3％）という結果であった。

この結果から、多くの学生が対面式授業でもオ

ンライン式授業でも変わらず行っていることは「授業や勉強への不満を友達と話し合う」であった。友人と話すことで不満を解消し、次の活力に繋がるのであろう。不満や愚痴を話せるのであれば、他の間接的な援助も実施できると、学びが深まり一人で学習している時間への効果が期待できるのではないだろうか。

（6）学習機会の質問項目について

質問項目「休み時間中に友達と一緒に勉強する」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」14名、「まあまあしていた。」28名、42名（50％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」３名、「まあまあしていた」18名、21名（25％）という結果であった。

「講演会やセミナーに友達と一緒に行く」の回答は対面式授業の時は「よくしていた」６名、「まあまあしていた」６名、12名（14.2％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」３名、「まあまあしていた」６名、９名（10.7％）という結果であった。

「友達と一緒に図書館に行く」の回答は対面式授業の時は、「よくしていた」８名、「まあまあしていた」25名、33名（39.2％）、オンライン式授業の時は「よくしていた」５名、「まあまあしていた」９名、14名（16.6％）という結果であった。

学内で授業を受けていた時は、半数の学生は休み時間を有効に利用して一緒に勉強していたが、オンライン式授業では半減しており、休み時間という感覚がもてないように思われる。また図書館、講演会、セミナーなどに行くことは、元々想定しておらず、特に講演会やセミナーに参加してまでの学習意欲や興味が現実にわかないのであろう。もっと学びを深めたい、学内以外の場所での学ぶの環境へのアプローチの方法をもっと積極的に、教員が導く必要があると考える。

５．総合考察と今後の課題

対面式授業とオンライン式授業での友人との学習活動の比較の結果、対面式授業の方がすべての項目でオンライン式授業より、友人と実施しているという結果であった。オンライン式授業だから増えた項目はなく、友人との学習活動に関しては、オンライン式授業はそれほど効果的であるとは言えないであろう。

2020年の度授業から、すべての教員・学生がインターネットを活用した授業を実施及び受講するという状況が余儀なくされ、教員はパソコンを使用しているが、学生は携帯電話の画面上で、ひとりで授業を受けている場合が多くなっていることにより、友人と学習する意欲が薄れていることも考えられる。

また外出制限もある中、家族が一日中同じ空間でいることで起こる不満などへのストレスも生じていることから、学びを深める環境が整えづらい学生もいることも考慮しなければならない。すべてが初めてのことから、教員も学生も戸惑いながら、授業を行っている状況である。

授業を進める上で、学生は授業のスケジュール管理を行い、授業の受け方、課題提出の方法など、

表6-1　相互学習質問項目結果　n=84

	対面式授業		オンライン式授業	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
友達と一緒に図書館に行く。	2.79	1.345	2.08	1.263
休み時間中に友達と一緒に勉強する。	3.27	1.255	2.23	1.329
放課後、大学で友達と一緒に勉強する。	2.89	1.362	2.15	1.375
カフェや自宅で友達と一緒に勉強する。	2.76	1.453	2.27	1.434

表6-2　学習機会の質問項目における対面式授業とオンライン式授業のクロス結果　n=84

		［オンライン式授業のときは］講演会やセミナーに友達と一緒に行く。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］講演会やセミナーに友達と一緒に行く。	まったくしていなかった。	41	0	0	0	0	41
	あまりしていなかった。	3	8	0	0	0	11
	どちらともいえない。	3	2	11	3	1	20
	まあまあしていた。	2	1	0	3	0	6
	よくしていた。	1	2	1	0	2	6
合計		50	13	12	6	3	84

		［オンライン式授業のときは］友達と一緒に図書館に行く。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］友達と一緒に図書館に行く。	まったくしていなかった。	19	0	0	0	0	19
	あまりしていなかった。	7	13	1	0	0	21
	どちらともいえない。	2	3	6	0	0	11
	まあまあしていた。	9	2	6	8	0	25
	よくしていた。	2	0	0	1	5	8
合計		39	18	13	9	5	84

		［オンライン式授業のときは］休み時間中に友達と一緒に勉強する。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］休み時間中に友達と一緒に勉強する。	まったくしていなかった。	10	0	0	0	0	10
	あまりしていなかった。	10	3	0	0	0	13
	どちらともいえない。	5	1	11	2	0	19
	まあまあしていた。	13	4	1	10	0	28
	よくしていた。	1	3	1	6	3	14
合計		39	11	13	18	3	84

		［オンライン式授業のときは］放課後、大学で友達と一緒に勉強する。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］放課後、大学で友達と一緒に勉強する。	まったくしていなかった。	13	1	0	0	0	14
	あまりしていなかった。	15	11	0	0	1	27
	どちらともいえない。	3	3	3	1	0	10
	まあまあしていた。	5	4	2	8	1	20
	よくしていた。	2	3	0	2	6	13
合計		38	22	5	11	8	84

		［オンライン式授業のときは］カフェや自宅で友達と一緒に勉強する。					
		まったくしていなかった。	あまりしていなかった。	どちらともいえない。	まあまあしていた。	よくしていた。	合計
［対面式授業のときは］カフェや自宅で友達と一緒に勉強する。	まったくしていなかった。	23	0	0	0	0	23
	あまりしていなかった。	6	8	0	1	2	17
	どちらともいえない。	2	4	8	1	0	15
	まあまあしていた。	6	3	0	6	0	15
	よくしていた。	0	2	2	2	8	14
合計		37	17	10	10	10	84

自力で修得せざるを得ないため、個人差が大きい結果となっている。友人関係が大学への適応や学業成績に影響を及ぼすことは、多くの研究からも明らかにされており、友人との関係が構築され、助け合いながら進められる学生は、学習に対する興味や努力が高く、授業への取り組みも積極的であることが示されている（中山ら2015，石田ら2015）。

オンライン式授業における学習疎外要因として、十分な指導を受けられない、友人と接する機会が少ないため有益な情報を得にくくなることによる不安や孤独感、自信喪失などがあることが示されている（石川ら2017）。

そのため、オンライン式授業が中心となったことで友人との学習が少なくなったことが今後どのような影響を及ぼすのか注視していく必要があろう。

今後は教員からの学習支援としての激励を増やし、進捗管理支援や効果的な学習方法の提案などを検討し、孤立しない、不安感を抱かずに学べる

ようにする支援が必要である。学業的援助要請として、「自律的援助要請」と「依存的援助要請」があり、どちらもしない「要請回避」に分けられることが示唆されている（瀬尾2007）。直接会うことができない状況の中で、個人の特性を理解し、個別の配慮をどのように行うことができるのか、学業支援を円滑に行うには、教職員の連携を図らなければならない。

もちろん、非常勤による科目も多く、教員同士が顔を合わせることもなく、授業が行われている状況では、連携を取ることは難しいであろう。教員同士の直接的な連携ではなく、学生の情報をWeb上で管理できるシステムの開発により、個人の状況の把握ができるようにすることで、学生への個別対応は充実できるであろう。そして、友人との学習活動への援助として、インターネットやアプリの活用方法を、学べる環境を整え、オンライン式授業へのハードルを低くすることが必要である。大学として、入学時ノートパソコンやiPadなどの貸与などを行い、学びを進めるための通信環境をどこまで整えられるかが、今後のオンライン式授業での質の高い教育を目指すためには必要不可欠であり、今後の課題である。

引用文献

Berndt, T. J. (1999). Friends' influence on students' adjustment to school. *Educational Psychologist*, **34**, 15-28.

Guay, F., Boivin, M., & Hodges, E. V. E. (1999). Predicting change in academic achievement: A model of peer experiences and self-system processes. *Journal of Educational Psychology*, **91**, 105-115.

Ide, J. K., Parkerson, J. Haertel, G. D., & Walberg, H. J. (1981). Peer group influence on educational outcomes:A quantitative synthesis. *Journal of Educational Psychology*, **73**, 472-484

Newman, R. S. (1990). Children's help-seeking in the classroom: The role of motivational factors and attitudes. *Journal of Educational Psychology*, **82**, 71-80

石川奈保子, 向後千春（2017）オンライン大学で学ぶ学生自己調整学習方略およびつまずき対処方略 日本教育工学論文, 41：329-343.

石田靖彦, 吉田俊和（2015）友人との関係の親密さと友人の特徴が生徒の学習動機づけに及ぼす影響, 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 5：133-140.

岡田　涼（2008）友人との学習活動における自立的な動機づけの役割に関する研究, 教育心理学研究, 56.14-22.

菅沼崇, 古城和敬, 松崎学, 上野徳美, 山本義史, 田中宏二（1996）友人のサポート供与がストレス反応に及ぼす効果, 実験社会心理学研究, 36, 32-41.

瀬尾美紀子（2007）自律的・依存的援助要請における学習観とつまずき明確化方略の役割－多母集団同時分析による中学・高校生の発達差の検討－, 教育心理学研究, 55（2）：170-183.

中山留美子, 中西良文, 長濱文与, 中島誠（2015）初年次前期の授業での対名関係への動機づけが大学適応に及ぼす影響 心理研究, 86（2）：170-176.

丹野宏昭（2007）．友人との接触頻度別にみた大学生の友人関係機能 パーソナリティ研究, 16, 1, 110-113.

速水敏彦, 田畑治, 吉田俊和（1996）総合人間科の実践による学習動機づけの変化, 名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科）, 43, 23-35.